

11 付属語 助詞 (2)

名前

年 組 番

100点

1 【副助詞】 各文の副助詞に——線を引きなさい。

4点×5

- ① 小学生ですら解けるような問題だ。
- ② 私が持っているのは千円だけだ。
- ③ 彼こそがぼくたちの希望の星だ。
- ④ 夏休みが終わるまであと少しだ。
- ⑤ 私の兄はいつも本しか買わない。

2 【副助詞の働き】——線の副助詞の働きを、あとから選びなさい。

4点×5

- ① 君さ^えよければ出かけよう。
 - ② 寒いう^えに風さ^え吹き出した。
 - ③ 駅へは一時間くらいかかる。
 - ④ 何か甘いものでも食^{あま}べよう。
 - ⑤ まさか怒^{おこ}りはしないよ。
- ア 添^{てん}加 イ 限定 ウ 例示
エ 程度 オ 強調

3 【副助詞「ばかり」】——線「ばかり」の働きを、あとから選びなさい。

3点×3

- ① いま着いたばかりだ。
 - ② テレビばかり見ないように。
 - ③ 三日ばかりかかります。
- ア 限定 イ 程度 ウ 直後

4 【終助詞】 各文の終助詞に——線を引きなさい。

4点×4

- ① こんな早くに電話してどうしたの。
- ② 絶対に見ないでよ、と彼女は言った。
- ③ もうそろそろ五時になりますか。
- ④ 暗くなったら一人で外出するな。

5 【終助詞の働き】——線の終助詞の働きを、あとから選びなさい。

4点×5

- ① 彼がごまかすものか。
- ② 日曜だけどき、開いてるよね。
- ③ もう一度やってみるぞ。
- ④ おお、偉大なる神よ。
- ⑤ ここでは日本語を使うな。

ア 念押し イ 呼びかけ ウ 反語
エ 禁止 オ 強調

6 【終助詞「か」】——線「か」の働きを、あとから選びなさい。

3点×3

- ① 今度一緒に遊びに行こうか。
 - ② 明日の朝は晴れるだろうか。
 - ③ 彼が遅刻などするだろうか。
- ア 反語 イ 勧誘 ウ 疑問

7 【副助詞・終助詞】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

各完答 3点×2

家で宿題をしていたら、友達から電話がかかってきた。魚釣りに行く相談だった。あと五分くらいで宿題も終わりそうだったので、気分転換にいいなと思い、「うん、行くよ。」と、返答した。

(1) この文章にある副助詞を二つ抜き出しなさい。

(2) この文章にある終助詞を二つ抜き出しなさい。

11 付属語 助詞 (2)

名前

年 組 番

100点

解答

- 1 ① 小学生ですら解けるような問題だ。
 ② 私が持っているのは千円だけだ。
 ③ 彼こそがぼくたちの希望の星だ。
 ④ 夏休みが終わるまでであと少しだ。
 ⑤ 私の兄はいつも本しか買わない。

- 2 ① イ ② ア ③ エ
 ④ ウ ⑤ オ

- 3 ① ウ ② ア ③ イ

- 4 ① こんな早くに電話してどうしたの。
 ② 絶対に見ないでよ、と彼女は言った。
 ③ もうそろそろ五時になりますか。
 ④ 暗くなったら一人で外出するな。

- 5 ① ウ ② ア ③ オ

- ④ イ ⑤ エ

- 6 ① イ ② ウ ③ ア

- 7 ① くらい・も
 ② な・よ

解説

- 1 副助詞は、いろいろな語に付いて、さまざまな意味を付け加える。

- ① 「すら」は類推。
 ② 「は」は題目。「だけ」は限定。
 ③ 「こそ」は強調。
 ④ 「まで」は限度。
 ⑤ 「は」は題目。「しか」は限定。

- 2 ① 「君さえ」は「君だけが」という意味。
 ④ 「甘いもの」という具体例。

- 3 ① 着いて「間もない」という意味。
 ② 「だけ、のみ」という意味。
 ③ 「だいたいぐくらい」という意味。

- 4 終助詞は、文の終わりや文の切れ目に付いて、気持ちや態度などを表す。

- ① 「の」は疑問。
 ② 「よ」は念押し。
 ③ 「か」は質問。
 ④ 「な」は禁止。

- 5 ① 「くか、いやそうではない」という意味。
 ② 「日曜であること」を確認している。

- 6 ① 遊びに行くことを誘っている。
 ② 単純な疑問。

- 7 ① 副助詞は「五分くらい」(程度)、「宿題も」(類推)。

- ② 終助詞は「いいな」(感動)、「行くよ」(念押し)。